

第 7 1 回 総合科学技術・イノベーション会議
(案)

内閣府科学技術・イノベーション推進事務局参事官（総括担当）付

第71回総合科学技術・イノベーション会議議事録

1. 日時 令和6年2月20日（火）17:28～17:52

2. 場所 総理大臣官邸4階大会議室

3. 出席者

議長	岸田 文雄	内閣総理大臣
議員	林 芳正	内閣官房長官
同	高市 早苗	科学技術政策担当大臣
同	松本 剛明	総務大臣
同	鈴木 俊一	財務大臣
	(進藤 金日子	財務大臣政務官代理出席)
同	盛山 正仁	文部科学大臣
同	齋藤 健	経済産業大臣
	(石井 拓	経済産業大臣政務官代理出席)
議員	上山 隆大	常勤 元政策研究大学院大学教授・副学長
同	梶原ゆみ子	富士通株式会社執行役員 EVP CSuO
同	佐藤 康博	株式会社みずほフィナンシャルグループ特別顧問 兼 一般社団法人日本経済団体連合会副会長
同	篠原 弘道	日本電信電話株式会社（NTT）相談役 兼 一般社団法人日本経済団体連合会 ・デジタルエコノミー推進委員会委員長
同	菅 裕明	東京大学大学院理学系研究科化学専攻教授 兼 東京大学先端科学技術研究センター教授 兼 日本学術会議会員 兼 ミラバイオロジクス株式会社取締役
同	波多野睦子	東京工業大学工学院電気電子系教授 兼 東京工業大学学長特別補佐 兼 量子科学技術研究開発機構量子ビーム科学部門研究統括

兼 日本学術会議連携会員

同 藤井 輝夫 東京大学総長

臨時議員 新藤 義孝 経済再生担当大臣

4. 議題

- (1) 今後の科学技術・イノベーション政策の方向性について
- (2) 地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの改定について

5. 配布資料

- 資料1 今後の科学技術・イノベーション政策の方向性について
- 資料2-1 地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの改定について（概要）
- 資料2-2 地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ（改定案）
- 資料3-1 学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針（概要）
- 資料3-2 学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針
- 参考資料1 第69回総合科学技術・イノベーション会議議事録（案）

6. 議事

【高市科学技術政策担当大臣】

ただいまより第71回総合科学技術・イノベーション会議を開催いたします。

本日は議題に鑑み、臨時議員として新藤経済再生担当大臣に御出席を頂いております。

また、本日はお手元の概要資料に基づいて説明させていただきます。内閣府のホームページにはそのほかの資料も含めて掲載させていただきます。

それでは、早速議事に入ります。

今後の科学技術・イノベーション政策の方向性について、資料1を説明いたします。

1ページを御覧ください。科学技術・イノベーションは我が国の経済成長における原動力であり、社会課題の解決や災害への対応等においてもその重要性が一層増しています。

ウクライナ情勢やイスラエル・パレスチナ情勢など、世界の安全保障環境が厳しさを増す中で、先端科学技術等をめぐる主導権争いは激化し、世界規模でのサプライチェーンの分断も起こっています。

主導権争いの例としましては、左下の表を御覧ください。A Iの大規模言語モデルについてはアメリカや中国が開発をリードしている状況です。また、中央のグラフですけれども、我が国では論文指数での順位が年々低下するなど、相対的な研究力の低下が見られます。右下の表でございますが、イノベーション・エコシステムの形成についても、例えば米国と比較をいたしますと、我が国では東京以外の地域でのイノベーション・エコシステムの形成に遅れが見られる状況でございます。このような状況が我が国の将来的な経済成長や雇用創出に大きな影響を及ぼす可能性が懸念されます。

2ページを御覧ください。科学技術・イノベーション政策は新しい資本主義や骨太方針といった政府方針の下で推進しています。具体的には、第6期科学技術・イノベーション基本計画の3年目の年次戦略でございます統合イノベーション戦略2023を踏まえて、先端科学技術の戦略的な推進、知の基盤と人材育成の強化、イノベーション・エコシステムの形成、この三つを基軸として取り組んでいます。

また、今般の能登半島地震ではこれまでの研究開発の成果が災害現場での情報集約支援等に活用されたり、スタートアップの技術や製品が積極的に活用されたりしており、社会実装が目に見える形で具体的に進んでいます。

分野別戦略に基づく取組としましては、下の図の左端の赤色文字の部分ですが、広島A Iプロセスの包括的政策枠組みの合意や、A I事業者ガイドライン案の策定、A Iセーフティ・インスティテュートの設立、フュージョンエネルギーフォーラムの設立準備などを進めてまいりました。

また、国際卓越研究大学の認定候補の選定や、G7科学技術大臣会合における研究セキュリティ・インテグリティに関する議論など、知の基盤等の強化にも取り組んでいます。

さらに、S B I R制度の抜本的な拡充やグローバル・スタートアップ・キャンパス構想の具体化を進めるなど、イノベーション・エコシステムの形成に向けた取組を推進しています。

3ページを御覧ください。統合イノベーション戦略2024に向けてでございますが、グローバルな視点で研究力や産業競争力、経済安全保障への対応を一層強化していくことが重要になっているということを踏まえ、同盟国・同志国やA S E A Nなどをはじめとする国際社会と連携を強化していくことが必要でございます。

国内では人手不足の顕在化に伴い、A Iやロボティクスによる自動化・省力化が急務となっており、また頻発する災害への備えや対応も喫緊の課題となっています。これらに科学技術・イノベーションが果たす役割は一層重要となっており、テクノロジーの社会実装を加速してい

くことが必要です。

真ん中辺りになりますが、すみません、左下ですね、A I、フュージョンエネルギー、量子、バイオなど重要技術については国際的なルールメイキングの主導や参画が必要になっていきます。また、科学技術・イノベーション政策と経済安全保障政策の連携強化や、グローバルな視点でリソースの積極的な活用にも取り組んでいく必要がございます。

このほか、食料の安定供給の確保に向けて、科学技術・イノベーションによる農業・食料イノベーションにも取り組んでまいります。ロボット、A I、I o Tなどを活用するスマート農業技術やみどりの食料システム戦略の実現に向けた技術の開発、社会実装などにより、高い生産性と低い環境負荷を両立した農業への転換を図っていきます。

また、公的資金による学術論文等について、国民が広くその研究成果にアクセスできる環境の実現に向けた取組を進めていきます。これにつきましては、先般の統合イノベーション戦略推進会議において、学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針が決定されましたので、報告を申し上げます。

さらに、国立研究開発法人の機能強化にも取り組んでいきます。我が国の科学技術・イノベーションを支える中核的な機関であり、研究セキュリティ・インテグリティを徹底しつつ、優秀な人材の確保、業務一体化などに取り組んでいきます。

最後、4 ページを御覧ください。先ほど申し上げましたが、能登半島地震における事例の紹介です。左側は過去に内閣府のS I Pで研究開発したシステムが災害関連情報の集約や共有に活用されている例です。右側はテレビにもよく出ておりましたが、スタートアップの技術の活用例です。小規模分散型の水循環システムや、腰の負荷を軽減するマッスルスーツが被災地の支援に活用されています。

それでは、次に資料2-1を御覧ください。二つ目の議事としまして、地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの改定について説明します。

同パッケージは、実力と意欲を持つ地域中核・特色ある研究大学に対する支援策をパッケージとして取りまとめたものです。今般、令和6年度政府予算案の内容を反映して、対象事業の追加などを行い、同パッケージの改定を行いたいと考えております。

私からは以上です。

これまでの議題について、有識者議員の皆様から御発言を賜りたいと存じます。

まず、上山議員、お願いいたします。

【上山議員】

ありがとうございます。

私からは、我が国の安全保障政策と科学技術・イノベーション政策に関する提言を申し上げます。

先進国における科学技術政策には、国力の源泉としての先端科学技術の開発という側面が強まっており、GDPで示される経済力だけではなく、その源泉としての先端技術開発競争が外交と防衛の交渉事案となりつつあります。このところ巷間をにぎわせている生成AI、量子技術、半導体、フュージョンエネルギーという大きな戦略は言うまでもなく、それぞれの分野で更に細分化された領域ごとの戦略と、その成果のイノベーションへのつながりを同志国間で共有しながら、広い意味での安全保障と科学技術政策の連携を各国とも模索をし始めております。

そのような状況下において、我が国においても科学技術政策と安全保障の政策連携を更に深める必要を感じております。特に言及すべきは、いわゆるコントロールド・アンクラシファイド・インフォメーション（公開を前提とする研究開発への緩やかな管理）という視点です。つまり、同志国間での共同研究を推進する際に、特定の研究内容の秘密保持、情報へのアクセス管理を明示化する必要がますます強まってきていると考えております。

このような政策に関してもさらに検討を深めていきたいと思っております。

私からは以上です。

【高市科学技術政策担当大臣】

ありがとうございます。

次に、梶原議員、お願いいたします。

【梶原議員】

ありがとうございます。

昨年はG7議長国として科学技術・イノベーションを成長戦略の柱に据える我が国のポテンシャルやリーダーシップを世界に示しました。今年はその成果を発展させる重要な1年となります。

世界は地政学的緊張や多くの国の選挙による政治変化、さらには生成AIなどの新技術が及ぼす社会への影響に向き合いながら、一方で気候変動やインフレなどのグローバルな課題解決を進めなければなりません。

我が国の科学技術・イノベーション政策には、こうした国際環境を見据え、同盟国、同志国などとの連携強化により、国際社会における役割を積極的に果たすことで、日本の成長や安全安心につなげるグローバル戦略が大変重要です。

また、人口減少、少子高齢化が加速する日本では、新たな価値創造に携わる人材の層の厚みと社会システムを果敢に変革する取組が必須です。地域中核・特色ある研究大学の取組を強化することで、多様なセクターが連携を深め、総合知によって科学技術と社会とが調和した Society 5.0 が一人一人にとって身近になることを期待いたします。

そのためにも、科学技術コミュニケーションは欠かすことのできない要素の一つであり、政策的な対応強化が必要と考えます。

私からは以上でございます。

【高市科学技術政策担当大臣】

ありがとうございます。

次に、佐藤議員、お願いいたします。

【佐藤議員】

ありがとうございます。

最初に、今後の科学技術・イノベーション政策の方向性につきまして一言申し上げたいと思います。

経済安全保障の重要性がますます高まっていく中で、我が国としては重要技術研究開発で他国に後れを取ることはできませんけれども、一方で全ての主要技術で世界トップクラスのポジションを確保することもまた難しい面もあると思います。

したがって、新しく設立が検討されておりますシンクタンクを中心にして、他国の科学技術開発の状況をしっかりと把握した上で、我が国が戦略的不可欠性を確保できる、あるいは確保すべき分野に優先的に予算配分を行うなど、大きな戦略性を持った科学・イノベーション政策の立案と実行が強く求められると考えております。

次に、地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージについてですが、本件は国際卓越大学と車の両輪を成す極めて重要なプロジェクトだと考えております。今回69校から応募がありました。中身を見てみますと、地方企業とのコラボレーション、地公体との連携、また地方発のスタートアップ育成の取組など、地域中核・特色ある研究大学にふさわしい創意工夫が

ある数多くの提案がございました。こうした地方大学、特色ある大学の研究体制を支えていくということは、我が国の科学技術力、研究体制の底上げを実現する上で極めて重要であることを痛感いたしました。

今後は、採択大学への伴走支援を強化しつつ、地域連携、大学間連携を一層強化するなど、パッケージの内容を進化させていくことで我が国の知的体系を格段に厚みのあるものに進化させていきたい、そのように考える次第でございます。

ありがとうございました。

【高市科学技術政策担当大臣】

ありがとうございます。

次に、篠原議員、お願いいたします。

【篠原議員】

ありがとうございます。

私からは、テクノロジーの社会実装について発言いたします。

先ほど高市大臣から御紹介があったように、能登半島地震においてS I Pの第1期で開発したS I P 4 Dが現地での災害対応支援で活躍しました。また、能登半島でシャワーや手洗い用の水を提供した小規模分散型水循環システムはS B I R制度で支援したスタートアップ企業が開発したものでございます。

このように、S I P、B R I D G E、S B I Rは単なる革新技術の開発にとどまることなく、社会実装を通じて社会的な課題の解決や新規事業の創出を目指したものでございます。

今年度からは、S I Pの第3期ではS o c i e t y 5 . 0からのバックキャストによって決定した14の課題、またB R I D G Eでは各省からの御提案を受けて決定した約40件のテーマに取り組み始めました。

その新技術を社会に実装するためには、技術の成熟度に加えて、ビジネスの継続可能性、すなわち初期コストだけではなく、ランニングコストを含めた経済性、スモールスタートして、その後機能とか規模というものを拡大していくといったような拡張性が重要となってまいります。

また、社会からの受容性や人材も重要ですし、場合によっては制度改革といったものが必要となる場合もございます。従いまして、S I Pの第3期及びB R I D G Eの推進に当たっては、

C S T I のリーダーシップが求められるとともに、関係省庁、国研、産業界との協力が不可欠でございます。緊密に連携しながら進めていきたいと考えておりますので、是非御支援いただくようよろしくお願い申し上げます。

私からは以上です。

【高市科学技術政策担当大臣】

ありがとうございます。

次に、菅議員、お願いいたします。

【菅議員】

ありがとうございます。

私はグローバル・スタートアップ・キャンパスについて述べさせていただきます。

このキャンパスでは既存の大学や民間インキュベーション施設にはない持つべき重要な機能が三つあります。第一に、このキャンパスでは世界に開いた類を見ないユニークなインスティテュートを持ち、そこのキャンパスに集まってくる研究者が世界最高峰のインパクトの高い共同研究ができる場となることです。

第二に、その共同研究から生まれる成果をイノベーションに直結させるために、ベンチャーキャピタルやアクセラレータの人たちが加わったビジネスユニットを内包し、各々の共同研究プロジェクトに対しマーケットから見たアドバイスをしてもらう機能があることです。

第三に、ビジネスユニットの人たちがその研究成果を基に、キャンパス外でハンズオンのスタートアップ企業の設立につなげていくという仕掛けも必要であります。キャンパスの最終像は知財やスタートアップ企業からのエクイティの収益でセルフサステイナブルなキャンパスになることです。

一方、キャンパス建設には時間が掛かるため、先行研究としてM I T等のパートナーシップを結んだトップ大学のサイエンティストと日本の様々な大学から参画するサイエンティストが共同研究を組み、レンタルラボの仮の研究施設で切磋琢磨する環境を試験的に形成して、実際にベンチャーキャピタル等からの助言を受ける試みをすることが非常に重要だと思っております。

皆様に御理解いただきたいのは、このキャンパスではこれまでに我々が経験のないことに挑んでおりまして、海外大学との交渉契約等で時間は掛かっておりますが、日本で基礎研究から

イノベーションまでシームレスに迅速につながる新しい発想で様々な意味のスタートアップをするキャンパスを構築することが必要と考えております。

以上であります。

【高市科学技術政策担当大臣】

ありがとうございます。

次に、波多野議員、お願いいたします。

【波多野議員】

ありがとうございます。

国際社会の分断とグローバルガバナンスの機能不全が深刻化する中で、秩序が保たれている我が国の科学技術・イノベーション政策の役割は大きく、CSTIが先駆的に取り組んできた三つの基軸はますます重要です。

大学の立場から発言させていただきます。

国際卓越と地域中核研究大学が両輪となる大学改革への期待は大きく、博士をはじめとする高度研究人材の拡充、スタートアップ・エコシステムの形成、更に国際頭脳循環によってグローバル社会でのイニシアチブに発展すると確信します。

特に先ほど佐藤議員からも御発言ありましたように、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業へ69校もの応募がありました。いずれも10年後のビジョンを描いて変革しようとする意欲的な構想でありました。大学改革の両輪に迅速かつ更なる支援の増強が必要と再認識しております。

先端科学技術推進には戦略的な国際協働が不可欠です。私の量子の分野では、国家戦略や国際連携の活発化などで状況が大きく変化しております。国際エコシステムに展開するにはルールメイキングの主導、国際特許や標準化の促進、そして研究インテグリティが必要です。国際競争力の開かれた大学であるためにも、国際情勢に応じてオンとオフのキャンパスの再配置も必要と考えます。

第6期基本計画により大学は大きく変化しようとしています。チャレンジする大学を活性化するために、更なる御支援をよろしくお願いいたします。

以上でございます。

【高市科学技術政策担当大臣】

ありがとうございます。

次に、藤井議員、お願いいたします。

【藤井議員】

ありがとうございます。

私からは、今回ダボス会議に行ってみりましたので、そこで感じた二つの課題について所感をお話ししたいと思います。

一つは、AIについてです。東京大学は今回イニシエーターという役割の一角を担って、サイドイベントとしてAIハウス・ダボスというものを開催いたしました。約5,000人の来場者を集めて、会場は超満員という状況でした。広島AIプロセスの議論も含めた、そこでの熟議を通じまして、AIの活用と抑制のバランスを冷静に見極めることが重要だとの認識が共有されたと考えています。

同時に、生成AIとロボティクスの組合せのように、日本が優位を持ち得るところをきちんと押さえていく巧みな戦略が必要だということを痛感いたしました。

それから、地球環境問題関係について、今回ネイチャーポジティブという考え方がかなり出てきてまして、カーボンニュートラルとコインの表裏という関係ですが、これらを統合した解決策が必要だという理解は格段に進んだと思います。

一方で、産学官を巻き込んだスピード感とスケールを伴った抜本的な解決策というのはまだ出てきておらず、特にそうした解決策への議論の中でアジアの声が若干少ないことについては懸念を持ちました。

全般に欧州の存在感が際立っている印象でしたので、日本としても世界がますます混沌とすすむ中で、我が国が国際的なルール形成の場にもっともっと乗り出していくことが必要だと考えます。

【高市科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

続きまして、関係閣僚から御発言をお願いいたします。

まず、松本総務大臣、お願いいたします。

【松本総務大臣】

情報通信は、あらゆる産業や社会活動の基盤として、産業競争力の強化と経済安全保障の双方の観点から極めて重要な分野であり、積極的に検討に貢献してまいります。

まず、A Iについて、基本計画の進捗状況でも触れられましたが昨年、我が国は、G 7 議長国として「広島A Iプロセス」を立ち上げ、包括的な政策枠組みに合意しました。今後、G 7 を超える国や企業等からの支持拡大に向けた取組を推進するなど、信頼できるA Iの実現に向け国際社会との連携強化を進めてまいります。

さらに、社会的な混乱をきたすインターネット上の偽・誤情報の流通・拡散への対応については、総務省の有識者会議において、国際的な動向や、表現の自由も含む様々な権利に配慮しつつ、制度面も含め、総合的な対策の検討を進めているほか、生成A Iにより生成されたコンテンツを判別する技術や情報コンテンツや発信者の信頼性を確保する技術の開発・実証やその国際標準化等にも取り組んでいく必要があると考えています。また、今後、社会全体でA Iの爆発的普及も見込まれ、高いデータ処理能力や低消費電力等の要求に対応し、デジタル社会を支える次世代情報通信基盤「Beyond 5G」について、関連市場の形成・拡大を強く意識しながら、社会実装とグローバルな市場の獲得を目指し、オール光ネットワーク等の研究開発と国際標準化を更に加速するとともに、量子通信、宇宙通信等の重要技術についても、社会実装をしっかりと見据えて研究開発を進めてまいります。

【高市科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

次に、盛山文部科学大臣、お願いいたします。

【盛山文部科学大臣】

科学技術・イノベーションは成長の原動力です。我が国を取り巻く国際環境が厳しさを増す中、文部科学省としては、世界に開かれた研究環境の整備等を支援しつつ、戦略性を持った国際頭脳循環を加速するとともに、多様な人材の育成、研究基盤の強化等を図ります。

また、先日H 3 ロケット試験機2号機の打上げに成功した宇宙分野等の重要分野における研究開発への支援についても、引き続き取り組んでまいります。特に、博士人材は社会の変革や研究力の強化、国際的ネットワークの構築を主導し、我が国の成長・発展をけん引することができる重要な存在です。現在、文部科学省では、私を座長とする「博士人材の社会における活

躍促進に向けたタスクフォース」での議論を進めております。博士人材の強み・魅力を可視化し、社会の多様なフィールドでの活躍を後押しするための方策について、春頃を目途に施策パッケージの取りまとめを行います。

また、地域の中核となる大学や、特定の研究分野に強みを持つ大学等の振興については、昨年12月に地域中核・特色ある研究大学強化促進事業の令和5年度採択大学を決定したところであります。引き続き、国際卓越研究大学や地域中核・特色ある研究大学への支援を含め、我が国の研究力向上に取り組んでまいります。

【高市科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

次に、新藤経済再生担当大臣、お願いいたします。

【新藤経済再生担当大臣】

科学技術・イノベーションには、地球温暖化・少子高齢化等、様々な社会的課題を解決し、成長のエンジンへと転換する力があります。DX、AIなど新技術の社会実装を徹底し、我が国経済を熱量あふれる新たなステージへと移行させることが重要となります。

スタートアップは、イノベーションの担い手として極めて重要です。能登半島地震においても、スタートアップの技術が活用され、被災地支援に大いに貢献しています。公共調達を活用し、スタートアップの技術・製品を被災地にお届けすることで、より大規模・迅速な被災地支援を実現することができるのではないのでしょうか。行政が調達することで、スタートアップの育成にも資するものと考えています。

スタートアップ担当大臣として、公共調達の促進を含め、「スタートアップ育成5か年計画」に基づき、人材、資金、オープンイノベーションを三本柱とする施策を、官民・地域連携の下で一体的に推進していきます。

この計画の目玉の一つは、「グローバル・スタートアップ・キャンパス構想」であり、現在、構想の具体化を進めています。東京都心（渋谷・目黒）においてフラッグシップ拠点を創設し、世界トップの研究者やベンチャーキャピタルを集め、全体をオーガナイズする仕組みを導入します。これにより、海外のトップ大学・企業・人材を呼び込み、各地域のスタートアップ・エコシステムに波及していくための結節点としていきます。各地域をつなぎ、日本全体が一体となって、世界市場に通用するスタートアップを生み出すエコシステムを形成するなど、今後とも

スタートアップ育成に全力で取り組んでまいります。

【高市科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

次に、石井経済産業大臣政務官、お願いいたします。

【石井経済産業大臣政務官】

「今後の科学技術・イノベーション政策の方向性」に関し、経済産業省では、国内のイノベーション推進に向け、AIの開発力強化や、量子技術の産業化・グローバル拠点の設置、バイオものづくり・バイオ医薬品分野等に対する強力な支援を行っています。

また、特許権等の知的財産権から生じる所得に対して優遇する減税制度、いわゆるイノベーション拠点税制の創設や、経済安全保障推進法に基づくサプライチェーン強靱化支援、ディープテック・スタートアップの研究開発支援やスタートアップのグローバル展開・人材育成等に対する幅広い支援にも取り組んでいます。

今後とも、このような取組を力強く進めるとともに、核融合など、将来に向けた研究開発を進めることが重要な分野について、引き続き、関係省庁と連携し、積極的に取り組んでまいります。

「地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ」に関しても、地域の中核大学が、スタートアップの育成や企業との共同研究を通じて地域のイノベーションの拠点を目指す取組等を支援しております。

【高市科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

最後に、林官房長官、お願いいたします。

【林内閣官房長官】

統合イノベーション戦略推進会議の議長として、一言申し上げます。

科学技術・イノベーションは我が国の将来を左右すると言っても過言ではないほど重要性が増しています。各国が主導権を争い、しのぎを削る中、我が国としてもAIやフュージョンエネルギー、量子などの重要技術の研究開発や実用化に戦略的に取り組んでいく必要があります。

また、我が国の競争力を強化する上では、研究成果が広く発信され、様々な分野で活用されることも重要です。このため、先般の統合イノベーション戦略推進会議において、「学术论文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」を決定したところです。

今後の取組を一層加速すべく、統合イノベーション戦略2024の策定に向けて、関係府省がスピード感を持って具体的かつ実効的な施策の検討を進めるようお願いします。

【高市科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

この地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの改定につきましては、資料のとおり決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【高市科学技術政策担当大臣】

どうもありがとうございました。それでは、プレスに入室してもらってください。

(プレス 入室)

【高市科学技術政策担当大臣】

それでは、最後に、岸田内閣総理大臣より御挨拶を頂きます。総理、よろしくお願ひいたします。

【岸田内閣総理大臣】

本日は、有識者議員の皆さんにも御参加いただき、今後の科学技術・イノベーション政策の方向性について御議論いただきました。

科学技術は、産業構造転換の鍵であり、未来を切り拓(ひら)く礎です。先端科学技術の戦略的推進、研究力・人材育成の強化、イノベーション・エコシステムの形成、の3つの基軸で、引き続き着実に政策を進めるにあたり、グローバルな視点での取組強化が必要です。

具体的には、国際的なルールメイキングの主導・参画や、攻めと守り両面からの科学技術・イノベーション政策と経済安全保障政策の連携、これらを強化してまいります。

特に鍵を握る重要技術では、官民を挙げた総合的な戦略が不可欠です。広島A I（人工知能）プロセスの更なる前進や、A Iセーフティ・インスティテュートの設立などを通じて、規制と利用促進に一体的に取り組んでまいります。

また、新たな産業の芽となるフュージョンエネルギー（核融合エネルギー）や量子技術について、官民連携の取組を加速するとともに、バイオエコノミーの拡大に向けて、バイオ戦略の改定にも取り組んでまいります。

さらに、我が国の研究力や人材育成の強化に向け、研究開発人材などのリソースの積極活用や協働を進めるとともに、スタートアップ・エコシステム拠点都市の機能強化やグローバル・スタートアップ・キャンパス構想の実現などを通じて、世界に誇れる、競争力のあるイノベーション・エコシステムの形成を強力に推進してまいります。

2026年度からの次期科学技術・イノベーション基本計画を、令和の時代の科学技術創造立国の実現に向けた、長期的ビジョンを持った計画としていくべく、この夏には、その第一歩となる統合イノベーション戦略2024を策定いたします。

高市大臣を中心に、関係大臣が連携し、具体化に向けて、検討を進めてください。

（注）「総合イノベーション戦略2024」と発言しましたが、正しくは「統合イノベーション戦略2024」です。

【高市科学技術政策担当大臣】

総理、ありがとうございました。

それでは、プレスの皆様、御退室くださいませ。

（プレス 退室）

【高市科学技術政策担当大臣】

議事は以上でございます。本日の資料及び前回の議事録は公表をさせていただきます。

以上で、会議を終了します。誠にありがとうございました。

以上